

読・書・漫・遊 69

愛・蔵・秘・蔵・こ・の・3・冊

# 3books

人それぞれに本の読み方はあるだろう。  
必要に迫られる読書、楽しく心に潤いを与えてくれる読書……  
企業人にとっての読書の存在とは。

◎今月の選者  
**黒川 清**

日本学術会議・会長

『文明論之概略』を読む』

(丸山真男著、岩波新書)

『官の詭弁学』

(福井秀夫著、日本経済新聞社)

『福沢諭吉の真実』

(平山洋著、文藝新書)

## 混迷の未来を見通した福沢諭吉の大局観

回復基調とはいえない不透明な日本経済と増え続ける国の借金、急変する中国とアジア、そしてロシアとユーロ動向、中東、米国の国際政策等、不安定要素を多く抱える国際政治の動向、さらに環境問題、人口増加、南北格差拡大等を中心とした地球規模問題等、不安定、不確定要素を数多く抱え、目標の見えにくい2005年が始まった。

「政産官の鉄のトライアングル」の「ジャパンアズナンバーワン」の終焉から15年、では次の15年、2020年への日本の航路は、戦略は、何か。ここは歴史観、文明史観が必要だ。そのような「リーダー」はいるのか。明治の新時代日本の最も偉大な思

想家、知識人、教育者である福沢諭吉の思想の体系的原論『文明論之概略』は1875年(明治8年)の出版、「古典」である。「政府と名る籠の中に閉じ込められた」知識人の枠を破り、自由独立の知識人、福沢の思想は事の本質を深く考察し、いままも説得力がある。邦訳本のすくない時代、多くの原書を読み、西洋文明を理解し、日本の将来を思い、そこから思想と言葉の意味を汲み取る能力は想像しただけでもすごい。身震いがする。「スタチスチク」(統計)、「カラスインタレスト」(階級の利害)等、読者が英語をほとんど理解しない時代のカタカナは、本質をよく理解しないままの今のカタカナ氾

濫の対極だ。昭和を代表する思想家、丸山真男が解説した『文明論之概略』を読む』は、現在の日本国の根本的課題を考えるのに最もふさわしい書である。「序」の「古典からどう学ぶ」から、全編にわたって福沢への畏れにも似た尊敬の念と、福沢思想への洞察が伝わってくる。福沢の思想と日本への思いと懸念は、現在に通用する普遍性がある。

いまだに「人民」と「国家」「公」と「パブリック」、「外国交際の基本」等の本質を理解せず、むしろ勘違いしている(としか思えない)多くの責任ある立場の人、将来を担う若い人たちが読むべき本である。福沢の思想は、20世紀の日本を知らないにもかかわらず、なのである。文明史的に本質を見抜き、大局観ある人はここまで違う、すごい一言である。

この福沢、そして丸山の思想の底流を流れるものに「議論の本質を定する事」、「権力の偏重」、「古習の惑溺」などがある。これが日本の思想、文化の根底にある「官尊民卑」であり、現代の日本の問題にそのまま当てはまる。「古習の惑溺」とは「ひとつの事に溺れて正しい判断に迷う」ことであり、その刷り込み現象によってもたらされている権力、官僚組織の病理的側面に具体的に光を当てているのが、福井秀夫の『官の詭弁学』である。これは議事録の公開で明らかになった各種政府審議会のまか不思議な答弁集である。「行政

訴訟法」、「労災保険」、各種規制改革に関する珍問答集である。

個人としては有能なのであろう多くの官僚が詭弁ともいえる「できない理由」を繰り返す。立法と行政の違いも不明瞭、司法の独立さえ危うい民主国家といわれる日本。福沢の指摘は今もそのまま当てはまるのである。日本はどうする、どこへ向かうか。

『文明論之概略』、そしてその丸山の『読む』でも不可解なのが、福沢の「脱亜論」であろう。しかし、最近この疑問が解けた。平山洋『福沢諭吉の真実』である。福沢の多くの著作、私信、そして「時事新報」をめぐる編集者と全「社説」とその発表された時代背景と意義、また明治版、大正版、昭和版、現行版「福沢全集」の分析と編集責任等を詳細に分析した、最高級の福沢研究の成果といえる。

これによると、脱亜論の趣旨は



●『文明論之概略』を読む』(丸山真男著、岩波新書) ●『官の詭弁学』(福井秀夫著、日本経済新聞社) ●『福沢諭吉の真実』(平山洋著、文藝新書)

福沢の真意ではなく、むしろ意図を持って石河幹明(1888~1922)「時事新報」社説担当が創造、いや捏造した福沢像なのである。しかも、脱亜論は1960年代から出始めたのである。このような展開を、当時の時代背景と福沢の時代背景、またカギとなる福沢研究者が自分自身で原典を充分に検証することがなかったことなどの理由と解釈も示している。平山は、研究者自身が原典を読み、検証することの大切さを教えてくれる。

福沢の指摘していたことは、維新時代の日本の課題が、単に制度の改革ではなく精神革命の問題ということだ。しかし、これはまさしくいまの日本の問題ではないか。今でも精神状態は鎖国のままなのではないか、そして開国できない理由ばかり言っているのでは、と私には思われるのである。そして福沢諭吉の偉大さに感動する。